

仲間と歩いた神降地(上高地)

清水 正

薄暗い釜トンネルを越えると、バスの窓外から一気に新緑のシャワーが浴びせられた。上高地である。幾たび訪れても感動の瞬間だ。バスは大正池を越えバスターミナルへ。バスを降り立つと早春の凜々しい空気が身体を覆った。身なりを整え河童橋に向かう。白い花が木の枝を埋め尽くしている。ズミ(コナシ)かと思ったが切れ込みのある葉が見られない。かつて同じ時期に来たときズミは咲いていなかった。初めて見る光景である。道の入口にあるシウリザクラはまだ咲いていない。今年の子節の進行は少し遅いようである。確かに自然はその一瞬一瞬を見せてくれるので、目の前にあるもの全てが一期一会である。

河童橋まで梓川の左岸を歩いた。普段の観察会では見ることが出来ないものが目白押しである。



こうなったら遅々として進まないのが noi-Kyoto である。先に行けばなんぼでもあるのだが、初見は見逃さない。ズダヤクシュ、オオタチツボスミレ、ベニバナイチャクソウ、ベニバナミヤマエンレイソウ、クサボタン、ヤグルマソウ、ミヤマザクラ、ハシリドコロ等々。もう切りがない。とにかく木も草も暖温帯の京都とは圧倒的に違う冷温帯(ブナ・ミズナラ帯)のものである。

好天の河童橋では青空を背景に、まだ雪に覆われた穂高の峰々、岳沢の美しい溪谷、梓川のせせらぎ

の音を聞きながら、上高地に来たんだという実感が湧いてくる。ここではしばし草木ではなくあまりの美しい景色に見とれ、みんなは思い思いに写真を撮っていた。

まだ開いていないビジターセンターの裏を通って行く、タガソデソウがいつものように迎えてくれた。Aさんが草むらのなかに赤紫の花穂を見つけてきた。ノビネチドリ。今日初めて出会ったランだった。



ラショウモンカズラ



ノビネチドリ



エゾムラサキ

急峻な六百山の麓が梓川近くまで迫ってくる道を進んで行くと、大きな樹木の間から清冽な水の流が見えてきた。名前はなんと「清水川」。早咲きのバイカモもわずかだが咲いている。イワナだろうか？人を恐れることなくゆったりと泳いでいる。ここを過ぎると広々としたカラマツにかこまれた広場にでた。小梨平のキャンプ場だ。凹凸がない草地でテン泊には最高だなあと思いつつ明神へ急いだ。少しアップダウンがある道ですが沢山の植物を見られ飽きがきません。ラショウモンカズラが最盛期でいたる所で見られた。エゾムラサキが瑠璃色の小さな花をつけていた。シロバナヘビイチゴやキジムシロの白や黄色も絨毯のように広がっている。しかし、さすがに冷温帯です。か

えでの種類が多く楽しい樹木観察です。ヒナウチワカエデ、オガラバナ、アサノハカエデ、コミネカエデ、イタヤカエデ、アカイタヤ、オニイタヤ、エンコウカエデ、オオモミジ、ハウチワカエデ、コハウチワカエデ、ミネカエデ etc.。明神小屋の前は賑やかでした。トイレ休憩の後、昼食。明神池は明日に残し周辺を散策しますが、この辺りには今までと違う植物が現れます。

ヒロハユキザサ(ミドリユキザサ)が沢山出てきました。全体に普通のユキザサより大きく花も緑色。この新芽の 때가アスパラのように美味しい、白馬に行くとその宿でいつも食べさせてくれたのがやみつきになり、この葉を見ると真っ先にそのことを思い出す。タケシマランが葉に隠れて花弁の反り返った小さな花を咲かせていました。ツバメオモトもばらばらと咲いていてユリ科のオンパレードになっていた。もう一つ恥ずかしがり屋の花をみつけました。ウスバサイシンです。葉の下、茎の下の方に薄いエンジの花を咲かせていました。テンナンショウの仲間はややこしくていやだけど、ヒロハテンナンショウとカミコウチテンナンショウと思われるものが一緒に咲いていました。ここでは滅多に会うことがないレンブクソウにたくさん出会いました。華やかではありませんが立方体の下面以外全てに花が付くという変わり者、さすが noi-Kyoto の会員は色んな角度から写真を撮っていた。次も稀少種ルイヨウボタンが花を咲かせています。斜面にサンカヨウを見たときは、雨降り後なのでシースルーの花弁が見られると期待したのですが、ぬか喜びでした。

今回のツアーで最も感動したのは薄いピンクの可愛いサナギイチゴ(初めて見ました)と林道を人とすれ違うかのように自然に通って行ったサルの群れ(おそらくいつも新村橋にいた一群が工事の関係で下ってきたのではないだろうか)。そして別格の感動は、明神からずっと続いたニリンソウの群落が一層大きなものになり、緑のニリンソウがいつものように迎えてくれたこと。そしてフィナーレとして徳澤ではハルニレの大木に囲まれて地面びっしりのニリンソウが咲いていたことである。ハルニレとニリンソウの競演である。



静かで涼しい徳沢園の夜も過ぎて、早朝各人が三々五々、宿の周辺にヤッケを着て散歩する姿がありました。カッコウの囀りと澄んだ空気と冷気で身体はさわやかな目覚め。元牧場の跡で均された草地でのキャンプは気持ちよさそうです。道の真ん中やベンチの下に小さなテングクワガタを発見。最後の日が始まります。徳沢園の前で記念撮影の後帰路につきました。明神までは同じ道を行き、昨日わからなかったコマガタケスグリとザリコミの区別を知りました。そこから明神池を通り嘉門次小屋で昼食。私はきのこそばとイワナの燻製、燻酒。燻製がなかなか美味しかった。ここからの帰路は梓川右岸で、岳沢湿原を通るコースです。木道を通るので大変歩きやすいです。その両横にはオニグルミやケショウヤナギ、カツラの大木が茂っていました。レンゲツツジはまだつぼみでした。穂高への岳沢ルート登山口に出て河童橋へ。岳沢は紅葉の名所、ぜひ秋にも訪れたいと思いました。

バスターミナルはすぐそこです。しばしコーヒータイムで休憩としました。

何度きてもいいところです。カエデの種類も多いですが、かばのき科の樹木はこの辺りまで少ないとほんのわずかししか見られない。少し、かばのき科を深掘りしたい気にさせたくれたツアーでした。今回は光ファイバーの敷設工事で徳澤～横尾間が歩けなかったのが残念です。また秋にでもくるか?!(清水)